

株主のみなさまへ

第199期 事業報告書

2021年4月1日から2022年3月31日まで



拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第199期の業績および当社グループの取り組みにつきましてご報告申し上げます。

当連結会計年度におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、経済活動の持ち直しの動きが見られたものの、当社グループを取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続きました。

このような中、公共交通事業者としての責務を果たすため、感染予防を徹底しながら鉄道の運行継続を行い、また、沿線地域の事業者等と連携した各種イベントを開催するなど、誘客活動による沿線地域の活性化と収益の確保に努めました。

しかしながら、一定の業績回復はあったものの当連結会計年度の営業収益は4,352百万円(前期比10.6%増)、営業損失は287百万円(前期は639百万円の営業損失)、経常損失は192百万円(前期は497百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純損失は47百万円(前期は531百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。

当期の配当金につきましては、会社法に定める配当可能原資を確保できていないことから、誠に遺憾ながら引き続き無配とさせていただきますと存じます。株主の皆様には、お詫び申し上げますとともに、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

感染症流行が想定外に長期化する状況下、公共交通機関が、国民経済を支える大きな礎であることが、強く認識されるようになってきました。鉄道事業を主力とする当社グループは、この使命を果たすべく、「安全・安心・安定」を維持できるような事業遂行してまいります。

当社グループは、輸送の安全、無事故無災害の達成を最優先課題としております。このために、継続的な設備の更新・保全とともに、安全教育をはじめとした人材への投資を進めてまいります。また、顧客動向の変化、ニーズの多様化が進む事業環境にありますので、これらに対しても積極的かつ柔軟に対応してまいります。

沿線人口の長期的な減少傾向は当社グループの経営に深刻な影響を及ぼしますが、一方では、ふかや花園駅周辺において深谷市により進められている「花園 I C 拠点整備プロジェクト」は、今年各施設が順次開業を迎えることから、沿線への交流人口の増加は確実な状況となっています。この環境変化は、鉄道事業、観光事業など、グループ全体に大きなビジネスチャンスをもたらしますので、これを的確にとらえ、適切に対応することで、企業価値のさらなる向上に邁進してまいります。

敬具

2022年6月

代表取締役社長 牧野英伸

事業の概況

当社グループは鉄道事業を中核とし、不動産事業、観光事業、バス事業、その他事業を展開しております。当期におけるセグメント別の事業の概況は次のとおりです。

鉄道事業

鉄道事業におきましては、駅職員をはじめ全従業員のマスク着用、全列車内の抗ウイルス・抗菌加工、車内換気、列車・駅設備等の消毒など各種の感染症拡大防止策を実施いたしました。

また、輸送の安全性向上を図るため、設備面ではマルチプルタイタンパーや継電連動装置の更新、コンクリート枕木化などを計画的に実施したほか、異常時訓練や安全指導などによる従業員の意識向上に取り組み、本年度も運転無事故を継続いたしました。サービス面では、交通系ICカードシステムの導入やMaaSアプリによるデジタルチケットの販売を開始し、お客様の利便性向上に努めました。

旅客部門におきましては、「わくわく鉄道フェスタ」をはじめ沿線の市町や商業施設、同業他社と連携したイベントの開催、SLの魅力を高める各種企画列車の運行、記念乗車券の発売など、旅客誘致と増収施策に取り組みました。これらにより、定期・定期外旅客の人員及び収入は前期に比べ増加いたしました。

貨物部門におきましては、堅調に推移し輸送量及び収入とも前期に比べ増加いたしました。

この結果、営業収益は2,943百万円(前期比10.0%増)、営業損失は237百万円(前期は544百万円の営業損失)となりました。



不動産事業

不動産事業におきましては、前期と比較し、請負工事収入及び仲介収入が増加いたしました。

この結果、営業収益は341百万円(前期比5.4%増)、営業利益は173百万円(同2.8%増)となりました。



バス事業

バス事業におきましては、学校関係の団体利用は回復傾向にありましたが、本格的な需要回復には至らず、依然として厳しい状況が続きました。

この結果、営業収益は156百万円(前期比88.4%増)、営業損失は100百万円(前期は159百万円の営業損失)となりました。



観光事業

観光事業におきましては、個人のお客様の利用は回復基調にあるものの、団体での利用は依然として低調であり、厳しい状況が続きました。

この結果、営業収益は367百万円(前期比17.5%増)、営業損失は36百万円(前期は69百万円の営業損失)となりました。

なお、当該事業につきましては、収益性の低下を踏まえ、当期において減損損失を計上し固定資産を適正な価額まで引き下げております。



その他事業

その他事業におきましては、卸売・小売業では売上の回復基調が継続したほか、旅行業では鉄道事業と連携した企画に取り組むなど増収に努めました。一方、建設業においては工事等の受注が減少いたしました。

この結果、営業収益は884百万円(前期比1.7%減)、営業損失は101百万円(前期は48百万円の営業損失)となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

(単位:千円)

科 目	当連結会計年度末 (2021年度)	前連結会計年度末 (2020年度)	増減額
(資産の部)			
流動資産	2,504,406	2,398,231	106,174
固定資産	21,198,755	21,051,735	147,020
資産合計	23,703,161	23,449,967	253,194
(負債の部)			
流動負債	4,305,650	4,636,644	△330,993
固定負債	9,363,524	8,621,369	742,155
負債合計	13,669,175	13,258,014	411,161
(純資産の部)			
株主資本	146,334	198,764	△52,429
資本金	750,000	750,000	—
資本剰余金	19,014	19,014	0
利益剰余金	△590,981	△538,724	△52,256
自己株式	△31,698	△31,525	△173
その他の 包括利益累計額	9,876,538	9,981,625	△105,087
非支配株主持分	11,113	11,563	△449
純資産合計	10,033,986	10,191,953	△157,966
負債純資産合計	23,703,161	23,449,967	253,194

* 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

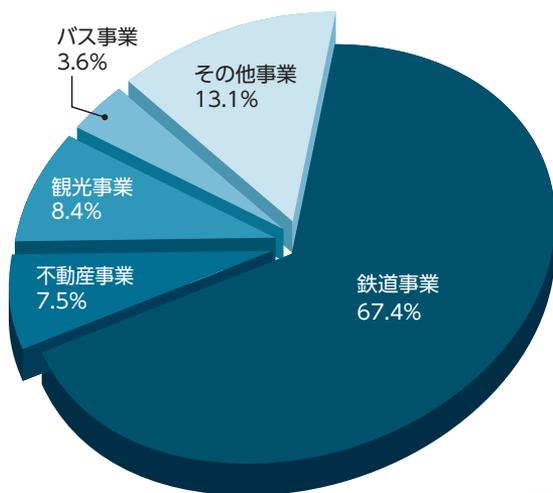
連結損益計算書の要旨

(単位:千円)

科 目	当連結会計年度 (2021年度)	前連結会計年度 (2020年度)	増減額
営業収益	4,352,172	3,933,279	418,892
営業費	4,639,419	4,572,319	67,099
営業損失(△)	△287,247	△639,040	351,792
営業外収益	137,152	182,338	△45,185
営業外費用	42,438	41,007	1,431
経常損失(△)	△192,532	△497,708	305,175
特別利益	1,122,385	124,769	997,615
特別損失	1,085,140	455,638	629,502
税金等調整前 当期純損失(△)	△155,288	△828,577	673,288
法人税、住民税 及び事業税	6,581	13,863	△7,282
法人税等 還付税額	△21,512	—	△21,512
法人税等 調整額	△92,226	△309,648	217,421
当期純損失(△)	△48,130	△532,792	484,662
非支配株主に帰属する 当期純損失(△)	△408	△1,451	1,043
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	△47,722	△531,341	483,618

* 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

セグメント別営業収益構成比



連結株主資本等変動計算書

(単位:千円)

科 目	当連結会計年度 (2021年度)	前連結会計年度 (2020年度)
株主資本		
当期首残高	198,764	563,839
会計方針の変更による累積的影響額	△ 10,631	—
会計方針の変更を反映した当期首残高	188,132	—
当期変動額		
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 47,722	△ 531,341
自己株式の取得	△ 179	△ 162
自己株式の処分	6	4
持分変動による増減額	—	19,548
土地再評価差額金の取崩額	6,097	146,875
当期変動額合計	△ 41,797	△ 365,075
当期末残高	146,334	198,764
その他の包括利益累計額		
当期首残高	9,981,625	10,035,780
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 105,087	△ 54,154
当期変動額合計	△ 105,087	△ 54,154
当期末残高	9,876,538	9,981,625
非支配株主持分		
当期首残高	11,563	11,711
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 449	△ 148
当期変動額合計	△ 449	△ 148
当期末残高	11,113	11,563
純資産合計		
当期首残高	10,191,953	10,611,331
会計方針の変更による累積的影響額	△ 10,631	—
会計方針の変更を反映した当期首残高	10,181,321	—
当期変動額		
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 47,722	△ 531,341
自己株式の取得	△ 179	△ 162
自己株式の処分	6	4
持分変動による増減額	—	19,548
土地再評価差額金の取崩額	6,097	146,875
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 105,536	△ 54,302
当期変動額合計	△ 147,334	△ 419,378
当期末残高	10,033,986	10,191,953

* 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。



個別財務諸表

個別貸借対照表の要旨

(単位:千円)

科 目	当会計年度末 (2021年度)	前会計年度末 (2020年度)	増減額
(資産の部)			
流動資産	2,004,535	1,937,317	67,217
固定資産	21,058,507	20,933,638	124,868
資産合計	23,063,043	22,870,956	192,086
(負債の部)			
流動負債	4,004,846	4,496,846	△ 491,999
固定負債	9,135,278	8,348,022	787,255
負債合計	13,140,124	12,844,869	295,255
(純資産の部)			
株主資本	41,441	51,805	△ 10,364
資本金	750,000	750,000	—
資本剰余金	14,144	14,143	0
利益剰余金	△ 691,004	△ 680,813	△ 10,191
自己株式	△ 31,698	△ 31,525	△ 173
評価・ 換算差額等	9,881,477	9,974,282	△ 92,804
純資産合計	9,922,918	10,026,087	△ 103,168
負債純資産合計	23,063,043	22,870,956	192,086

* 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書の要旨

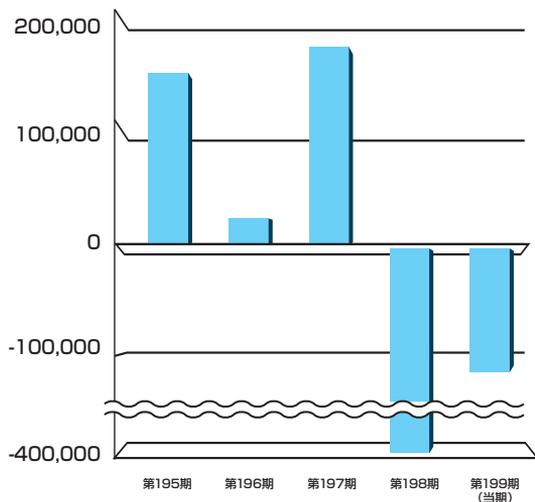
(単位:千円)

科 目	当会計年度 (2021年度)	前会計年度 (2020年度)	増減額
鉄道事業			
営業収益	2,943,981	2,675,186	268,794
営業費	3,181,190	3,219,380	△ 38,190
営業損失(△)	△ 237,209	△ 544,193	306,984
不動産事業			
営業収益	341,927	324,342	17,585
営業費	168,532	155,700	12,832
営業利益	173,394	168,641	4,752
観光事業			
営業収益	201,904	205,677	△ 3,773
営業費	247,469	255,574	△ 8,105
営業損失(△)	△ 45,565	△ 49,897	4,331
全事業営業損失(△)	△ 109,380	△ 425,449	316,069
営業外収益	45,208	77,993	△ 32,784
営業外費用	48,268	51,467	△ 3,198
経常損失(△)	△ 112,440	△ 398,923	286,483
特別利益	1,112,572	134,011	978,561
特別損失	1,122,840	346,060	776,780
税引前当期純損失(△)	△ 122,708	△ 610,973	488,264
法人税、住民税 及び事業税	836	1,890	△ 1,053
法人税等還付金	△ 21,512	—	△ 21,512
法人税等調整額	△ 91,614	△ 294,138	202,524
当期純損失(△)	△ 10,417	△ 318,724	308,306

* 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個別経常利益推移表

(単位:千円)



株主資本等変動計算書

(単位:千円)

科目	当会計年度 (2021年度)	前会計年度 (2020年度)
株主資本		
当期首残高	51,805	234,623
会計方針の変更による累積的影響額	△ 10,631	—
会計方針の変更を反映した当期首残高	41,173	—
当期変動額		
当期純損失 (△)	△ 10,417	△ 318,724
自己株式の取得	△ 179	△ 162
自己株式の処分	6	4
土地再評価差額金取崩額	10,858	136,063
当期変動額合計	267	△ 182,818
当期末残高	41,441	51,805
評価・換算差額等		
当期首残高	9,974,282	10,009,562
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 92,804	△ 35,280
当期変動額合計	△ 92,804	△ 35,280
当期末残高	9,881,477	9,974,282
純資産合計		
当期首残高	10,026,087	10,244,186
会計方針の変更による累積的影響額	△ 10,631	—
会計方針の変更を反映した当期首残高	10,015,455	—
当期変動額		
当期純損失 (△)	△ 10,417	△ 318,724
自己株式の取得	△ 179	△ 162
自己株式の処分	6	4
土地再評価差額金取崩額	10,858	136,063
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 92,804	△ 35,280
当期変動額合計	△ 92,536	△ 218,099
当期末残高	9,922,918	10,026,087

* 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。



交通系ICカード「PASMO」の利用開始

2022年3月12日より、秩父鉄道全駅にて交通系ICカード「PASMO」のサービスを開始いたしました。熊谷駅ではくす玉の開花やフルラッピングトレイン「彩色兼備」へ特別ヘッドマークを掲出するなど、サービス開始を記念したオープニングセレモニーを開催いたしました。※「PASMO」は株式会社パスモの登録商標です。



東京2020オリンピック聖火リレーの参加

2021年7月7日、五輪カラーのEL(電気機関車)5重連とラインくんだりを利用して東京2020オリンピックの聖火リレーに参加いたしました。沿線地域の皆様にご協力いただき、秩父駅から親鼻駅、「長瀬ラインくんだり」を経由して長瀬駅まで無事に輸送することができました。



記念入場券&記念乗車券の発売

SLパレオエクスプレス運行2800回を記念した入場券や昭和の歴史を感じさせる鉄道保安用具を再現した乗車券など、本年も趣向を凝らした様々な乗車券・入場券を発売いたしました。



【フルラッピング列車第4弾 「超平和バスターズトレイン」】

2021年4月より「超平和バスターズトレイン」の運行を開始いたしました。秩父市が舞台となったアニメ3部作「あの日見た花の名前を僕はまだ知らない。」「心が叫びたがっているんだ。」「空の青さを知る人よ」のキャラクターや劇中画を全車両へラッピングし、外装・内装ともにアニメの世界観をお楽しみいただけます。

企画列車の運行・イベントの開催

沿線の企業、自治体などと連携した企画列車やELによる特別臨時列車を運行いたしました。また、鉄道関連品の販売やお子様向けの鉄道員なりきり撮影会を実施した「わくわく鉄道フェスタ」、当社従業員をモニターにしたSL PALEO EXPRESS Weddingなど各種イベントを開催いたしました。



観光事業

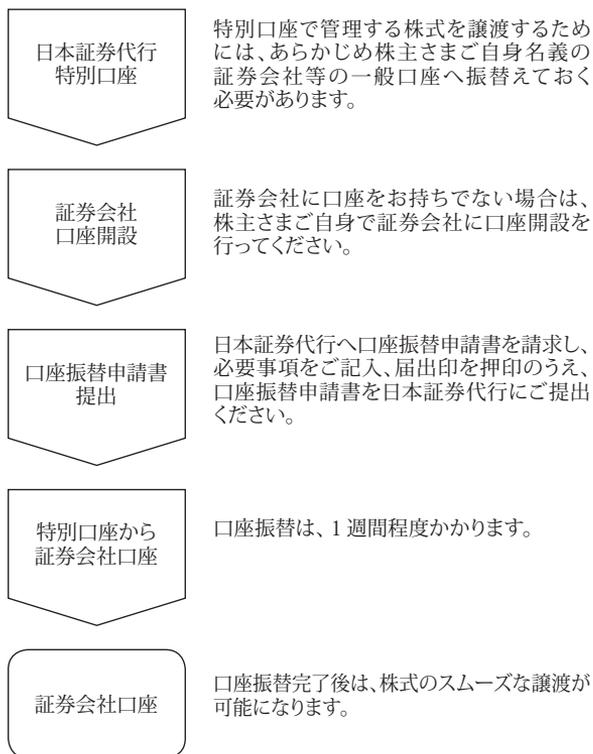
各施設において新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、お客様をお迎えいたしました。長瀨ラインくんだりでは密にならぬよう乗船人数を制限して運航いたしました。有隣倶楽部ではリニューアルした釜めしをご堪能いただける「旬の膳・瀨の川 鮎釜めしと涼彩御膳」を提供するなど、四季折々の旬の食材を使ったメニューを考案いたしました。また、ガーデンハウス有隣ではわらじかつ丼などの秩父名物のお食事と長瀨ラインくんだり乗船券がセットになった「長瀨まんきつトクトクセット」を発売し、長瀨駅前通り「有隣」では「豚みそ丼」を多くのお客様に召し上がっていただきました。宝登山ロープウェイでは「夕焼け鑑賞便」や「雲海鑑賞便」などの特別運行を、また、宝登山小動物公園では「モルモットの橋渡し」や「コールドックのおさんぽ～ダックウォーク～」などのイベントをそれぞれ実施し、宝登山の新たな魅力を発信いたしました。

証券会社に口座をお持ちでない株主さまへ

株券電子化(平成21年1月5日実施)の際に、証券会社等の口座で当社株式を管理されていなかった株主さまの株式は、当社が日本証券代行株式会社に開設した特別口座で管理されています。

「特別口座」で管理されている株式を譲渡する場合は、特別口座と同一の名義で開設されている証券会社等の一般口座へ振替を行う必要があります。将来の株式譲渡をスムーズに行えるように、あらかじめ特別口座から一般口座に振替えておくことをお勧めします。

特別口座からの振替のご案内



単元未満株式の買取・買増制度のご案内

【単元未満株式の買取請求・買増請求について】

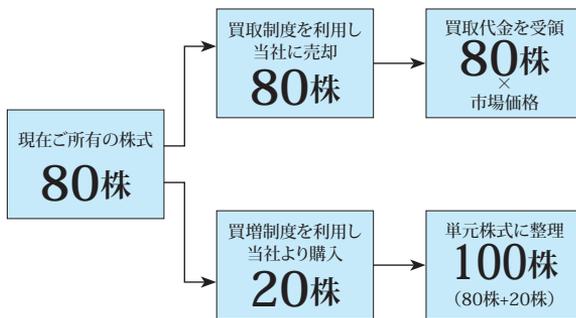
当社の単元株式数は、100株ですので、100株未満の単元未満株式は市場で売買取ることができません。

当社では、「買取請求制度」「買増請求制度」を用意しておりますので、ぜひお手続きくださいますようお願いいたします。

買取制度

ご所有の単元未満株式を当社に買取よう請求できる制度です。

(例)当社株式を80株ご所有の場合、その80株を市場価格で当社に売却し、代金を受領する。



買増制度

ご所有の単元未満株式を1単元(100株)の株式にするために必要な株式を買増することを当社に請求できる制度です。

(例)当社株式を80株ご所有の場合、20株を市場価格で当社から購入し、100株にする。

特別口座・単元未満株式の処理についてお問合わせ下さい。

日本証券代行 代理人部 (平日9:00~17:00)

0120-707-843

役員 (2022年6月28日現在)

取締役会長	大谷隆男
代表取締役社長	牧野英伸
取締役	坂本昌己
取締役	鷹啄泰則
取締役	中山高明
常勤監査役	根岸俊介
監査役	林俊宏
監査役	正田孝之

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会基準日	6月
定時株主総会	毎年3月31日
期末配当金	毎年3月31日
中間配当金	毎年9月30日
株主名簿管理人	日本証券代行株式会社
同事務取扱所	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店

(郵便物送付先お問い合わせ先)	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 0120-707-843(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の 全国本支店においても行っております。 東京都において発行する日本経済新聞 100株
-----------------	--

公告方法
単元株式数
皆様へのお願い

住居表示の変更・ご転居の際は、郵便物が
間違いなく届きますよう、お早めに上記株主
名簿管理人にお手続きください。

ホームページ

<https://www.chichibu-railway.co.jp>
※(鉄道ニュースやイベント情報がご覧いただけます。)

毎年3月31日の最終の株主名簿に記録された株主さまに
対して、その所有株式数に応じて次のとおり優待乗車証・優待割引券を
発行いたします。

1. 優待乗車証(定期券式)

ご所有の株式数に応じまして、優待乗車証を発行いたします。

ご所有株式数	乗車証の種類	発行枚数
1,500株以上 2,100株未満	当社電車全線優待乗車証	1枚
2,100株以上	当社電車全線および・索道 (宝登興業株式会社) (宝登山ロープウェイ) 全線優待乗車証	1枚

※有効期間・・・6月1日から1ヵ年間(5月下旬発送)

2. 優待乗車証(回数券式)

ご所有の株式数に応じまして、優待乗車証を発行いたします。

ご所有株式数	発行枚数
100株以上 300株未満	2枚
300株以上 500株未満	4枚
500株以上 1,000株未満	6枚
1,000株以上	10枚

※有効期間・・・7月1日から1ヵ年間(6月下旬発送)

3. 優待割引券

ご所有株式数100株以上で、優待割引券を発行いたします。

施設名	発行枚数
長瀬ラインくんだり	50%割引券 各5枚
有隣倶楽部お食事代(飲み物は除く)	
ガーデンハウス有隣お食事代 (飲み物は除く)	
宝登山小動物公園 宝登興業株式会社	特別入園券 5枚

※有効期間・・・7月1日から1ヵ年間(6月下旬発送)

秩父鉄道株式会社

〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町一丁目1番地

TEL 048-523-3311(代表)

URL <https://www.chichibu-railway.co.jp>

